

和歌山県における疾病を抱える労働者の治療と仕事の両立支援のための実態調査

森岡郁晴、寺下浩彰、宮下和久、生田善太郎、
竹下達也、藤吉朗、山本則夫、湯上ひとみ
(和歌山産業保健総合支援センター)

目的

- 和歌山県内の事業場における、
- 疾病を抱える労働者の治療と仕事の両立支援の状況を明らかにするとともに、
- 疾病を抱える労働者に配慮した、今後の職場改善に向けた支援を検討し、
- さらにパンフレットの配布や研修会・講演会の開催などを通して広報することを目的とした。

対象と方法

- 和歌山産業保健総合支援センターがこれまでに行った調査の対象事業場から予算の範囲内で789事業場
- 質問紙は、令和2年10月に配布・回収
- 回収数は187件（回収率23.7%）
- 対象事業場を50人未満の小規模事業場（53事業場）、50人から99人の中規模事業場（55事業場）、100人以上の大規模事業場（65事業場）に分類

質問紙の構成

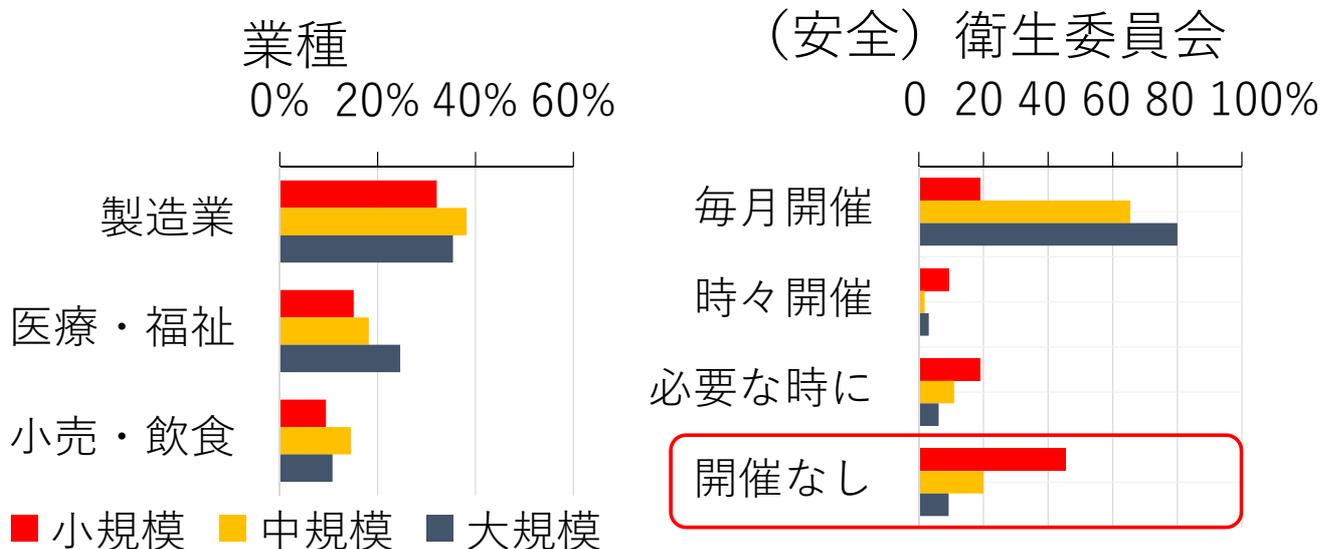
- 事業場、ガイドラインの周知
- 就労中のがん経験者やがん治療中の労働者
- 就業規則
- 疾病（がん、糖尿病等の私傷病）を抱えた労働者に対する取り組み
- 企業と労働者の支援体制の整備
- 医療機関との情報共有の促進
- 和歌山産業保健総合支援センターの支援

比較した調査結果

- 結果の一部の考察には、和歌山県の188事業場で実施された同様の調査結果（2017）を用いた

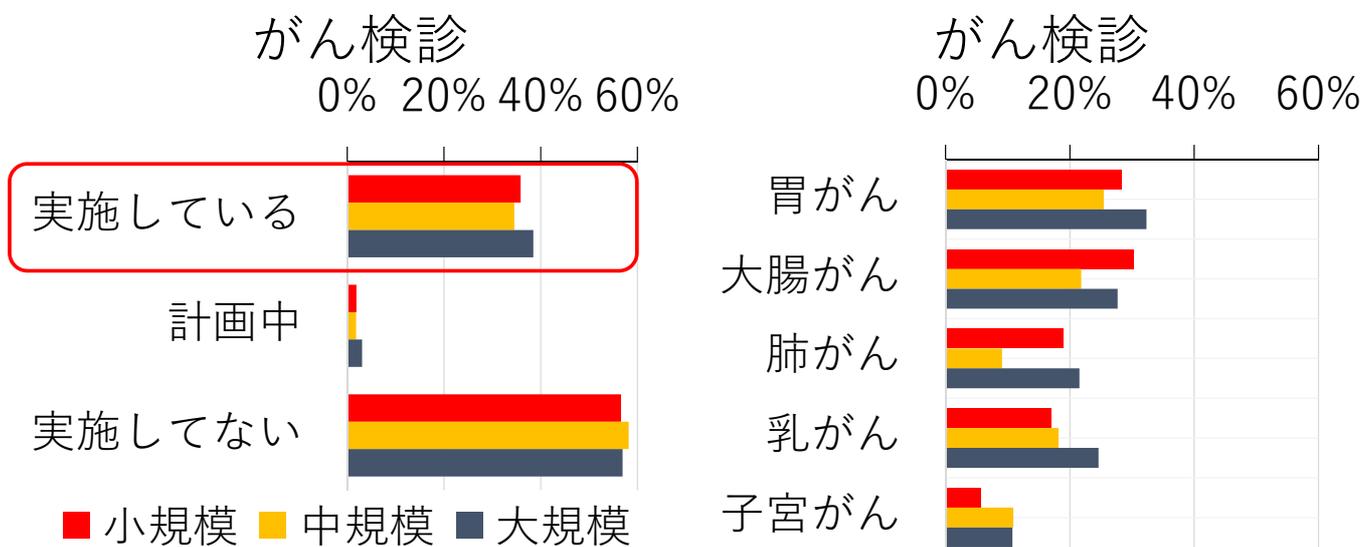
事業場について

業種と（安全）衛生委員会



中規模、大規模で課題がある事業場が見られた。

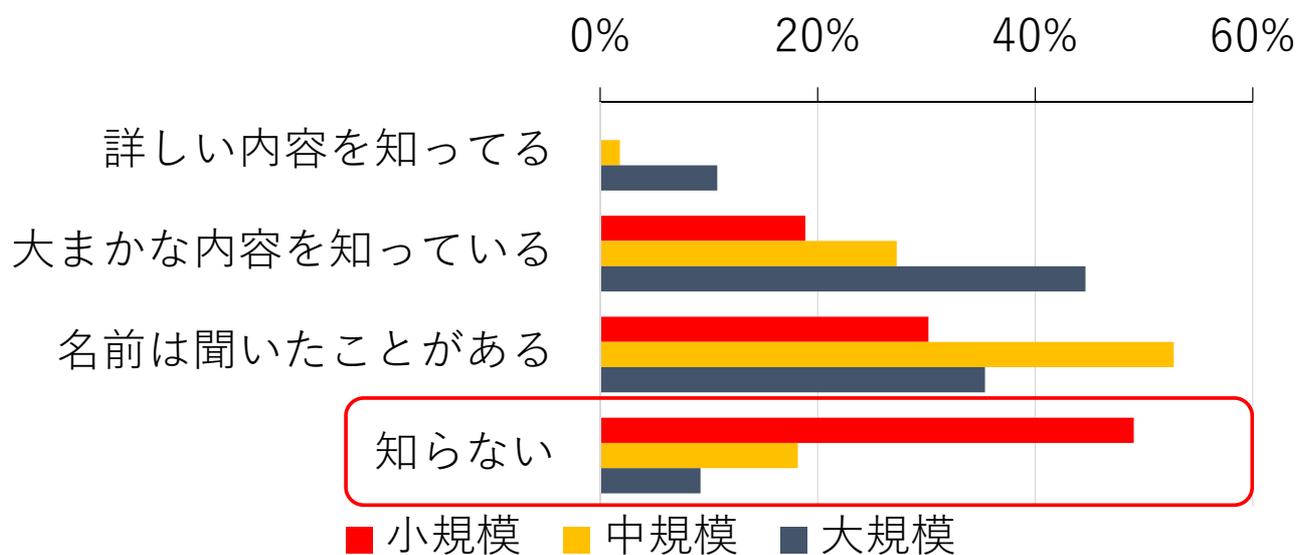
がん検診（事業場が制度として、または受診勧奨しているもの）



小規模においても実施または受診勧奨している

事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドラインの周知について

ガイドラインの周知

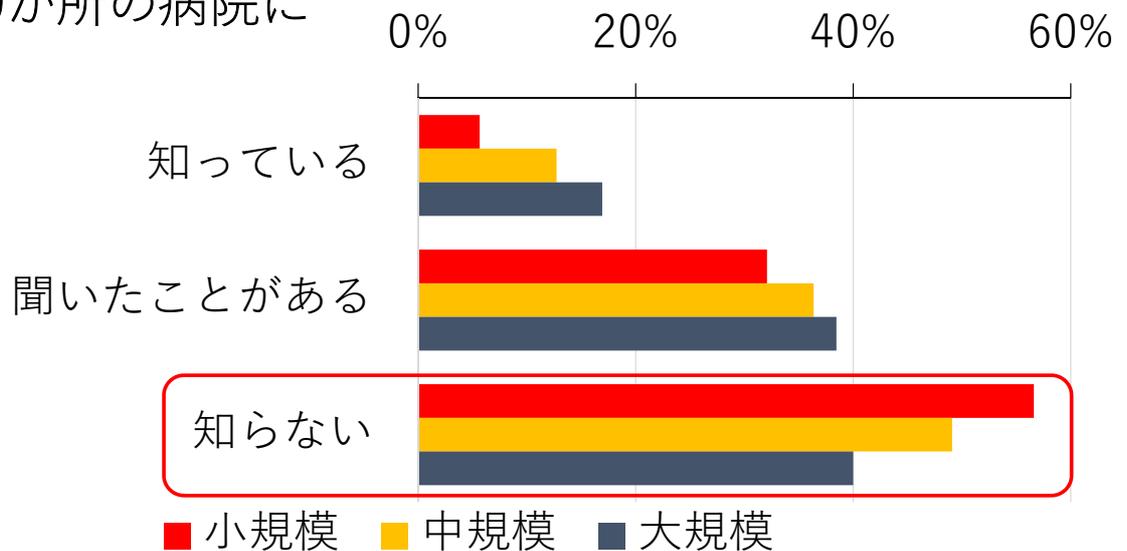


小規模と中規模を中心に、積極的な広報活動が必要

就労中のがん経験者やがん治療中の 労働者について

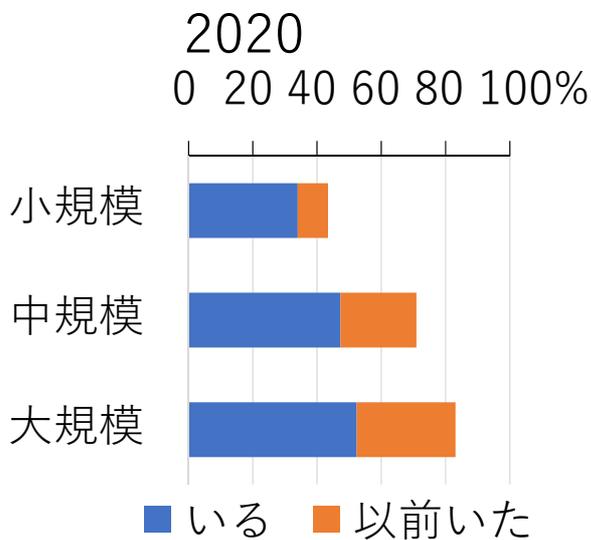
がん相談支援センターの設置の周知

和歌山県内9か所の病院に

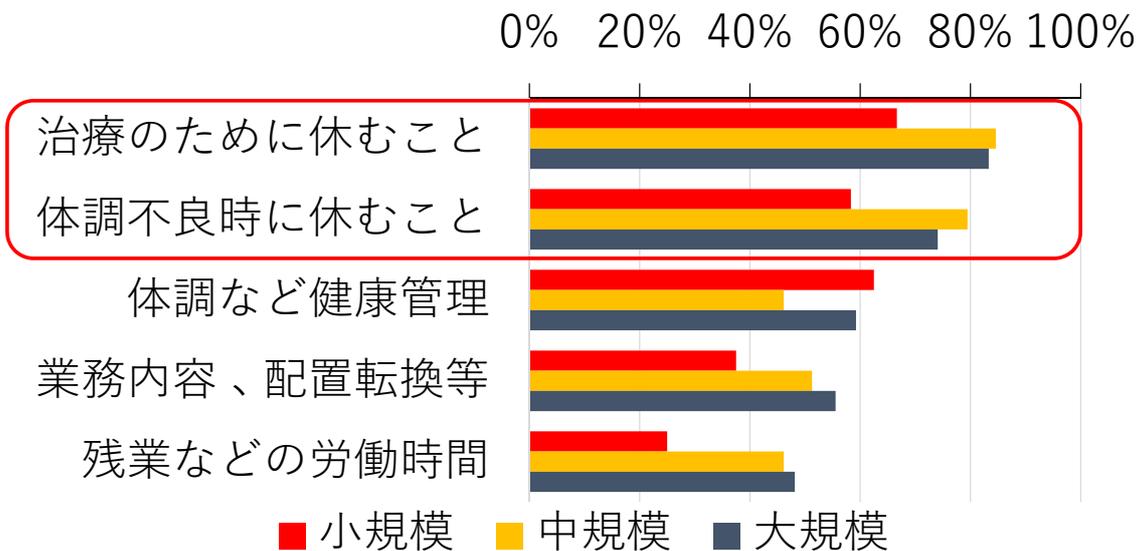


積極的な広報活動が必要

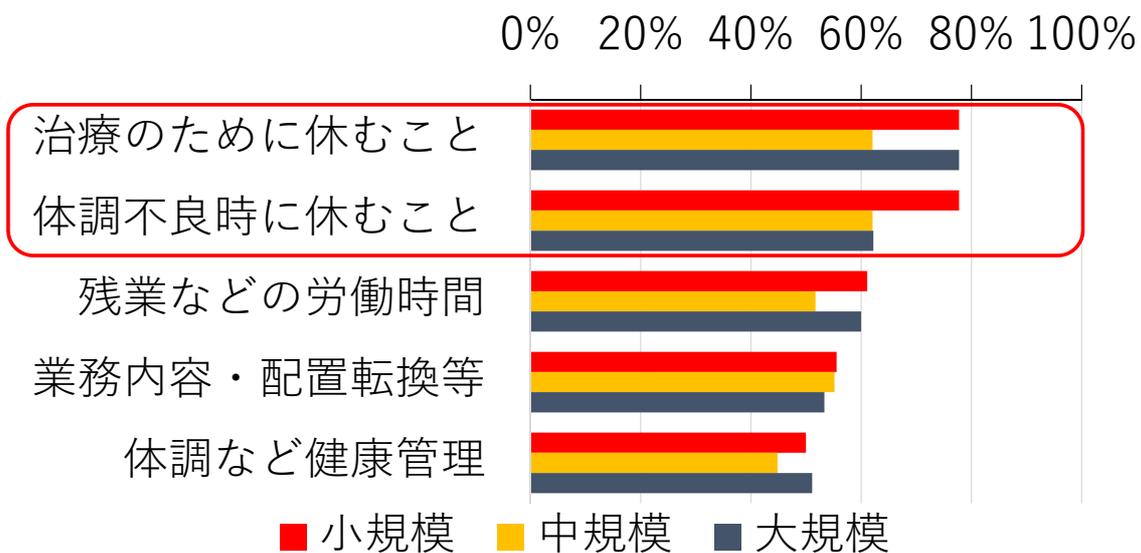
がん労働者



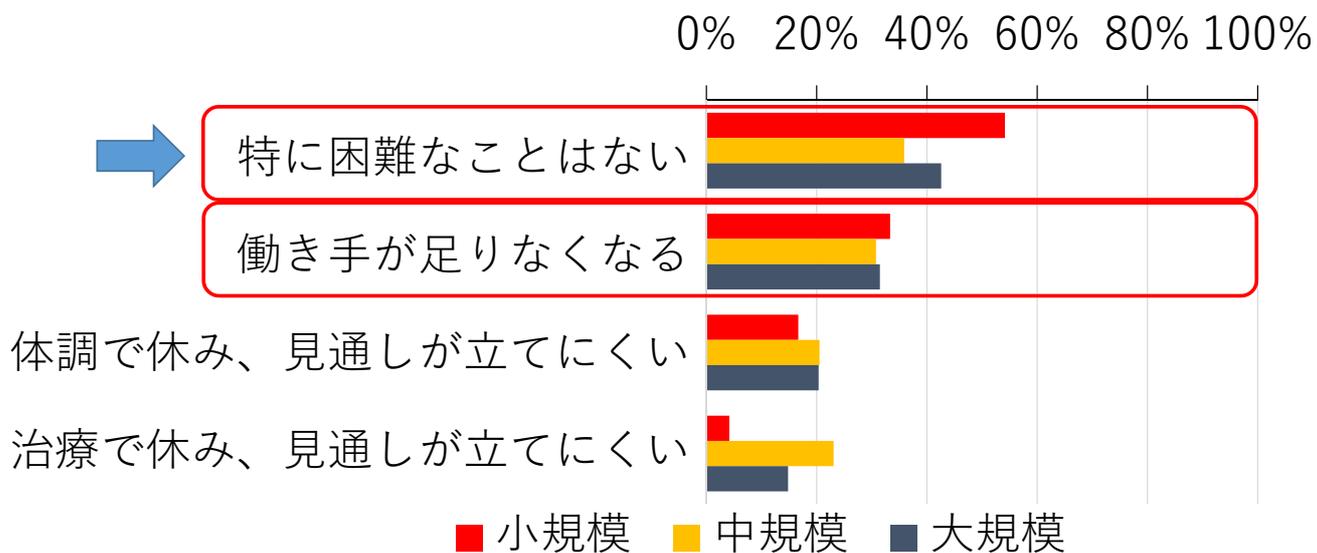
復職、雇用の際に配慮していること (2020)



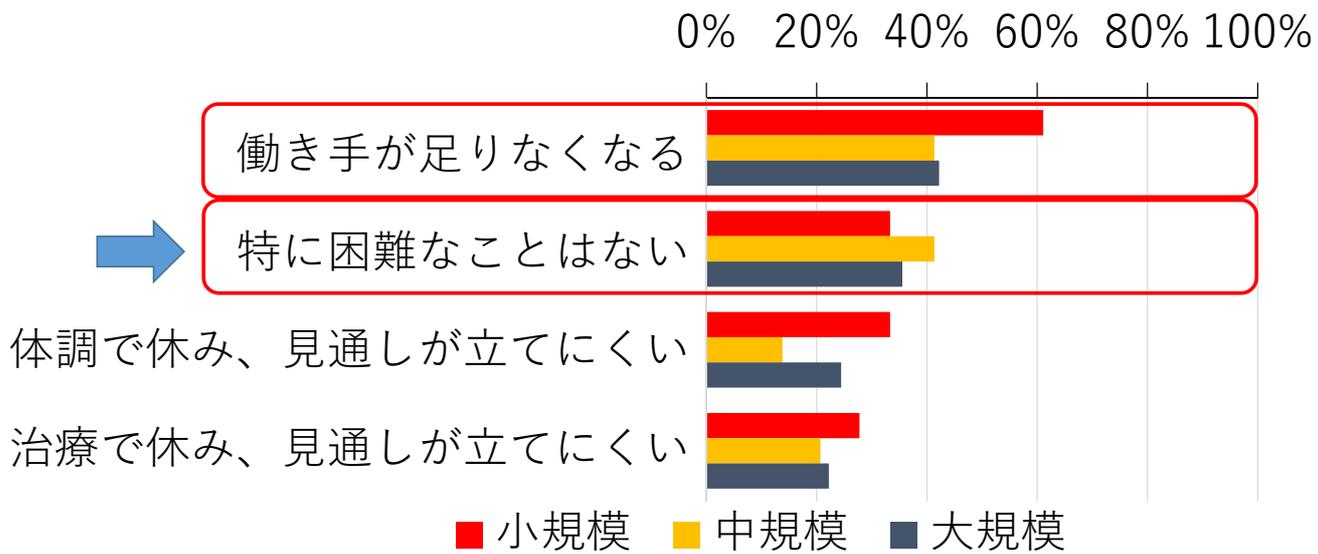
復職、雇用の際に配慮していること (2017)



がん労働者が職場にいることで、職場に 生じる困難 (2020)

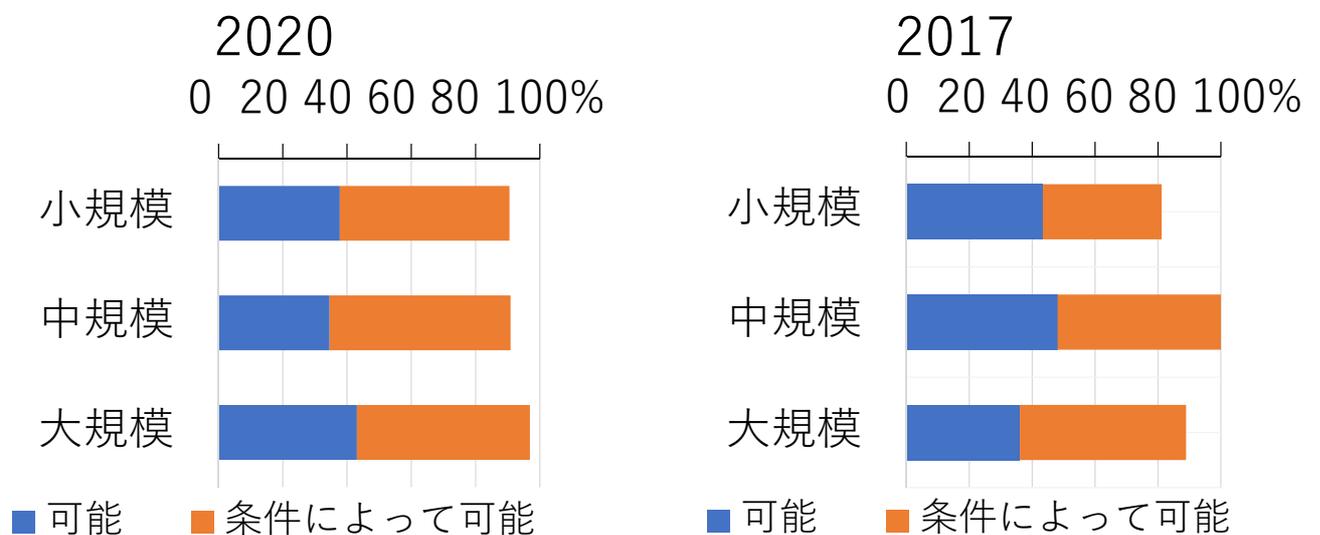


がん労働者が職場にいることで、職場に生じる困難（2017）

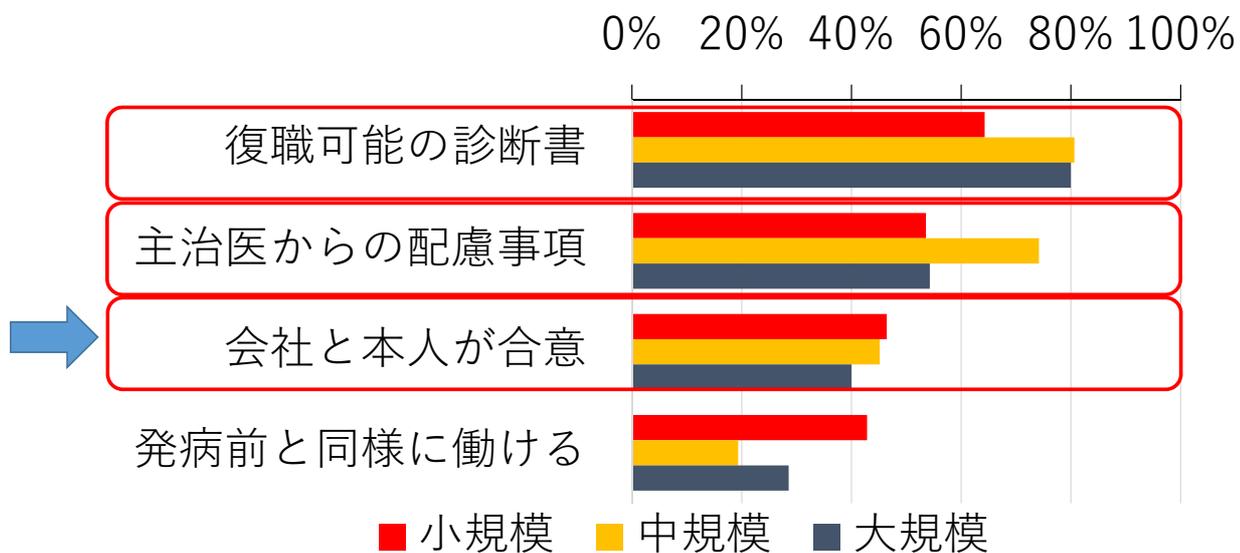


仕事を休むことに対する配慮と、困難への対応が進んでいる

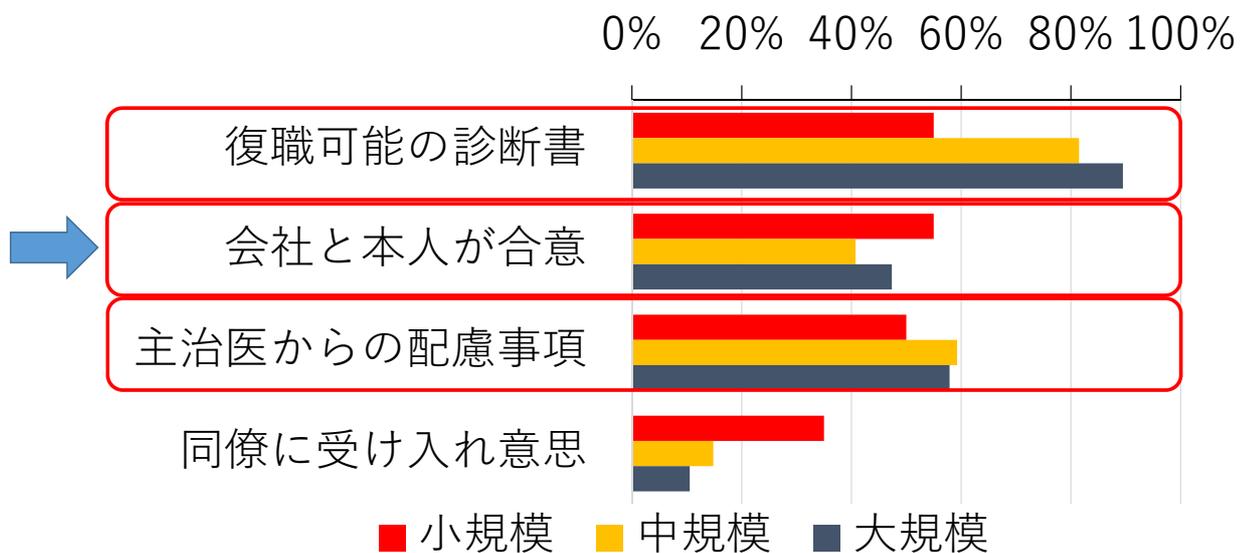
がん労働者が職場復帰を希望したら可能



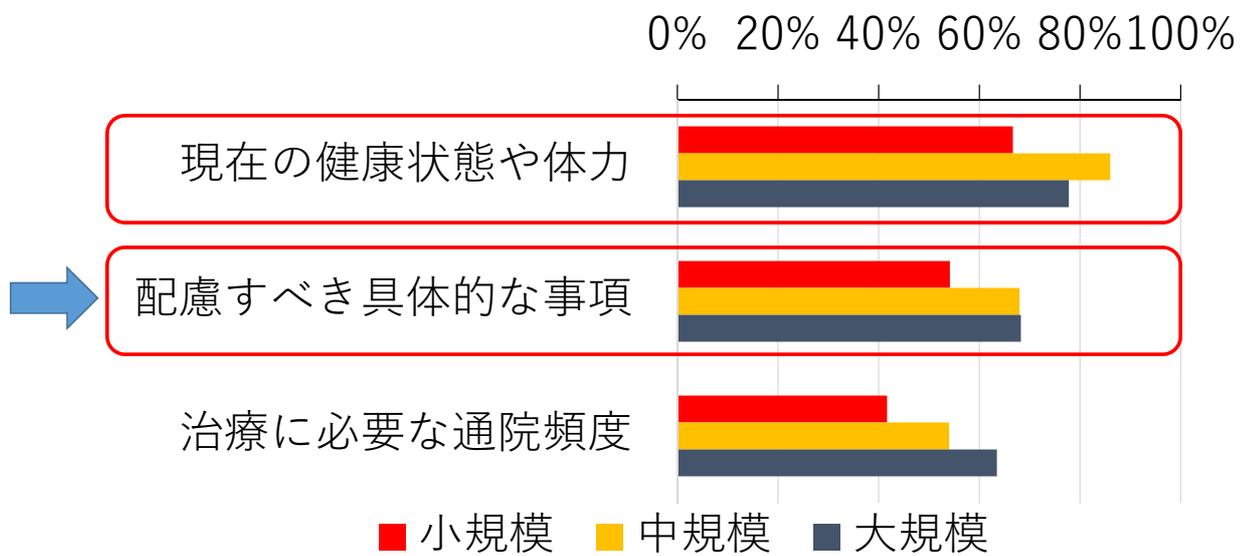
職場復帰が可能な条件（2020）



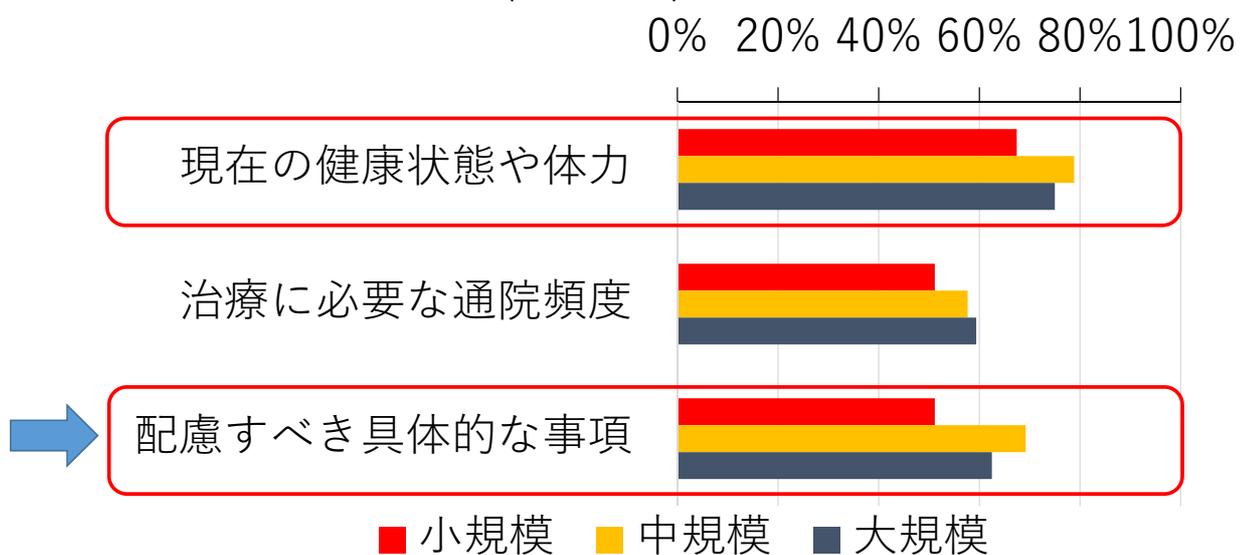
職場復帰が可能な条件（2017）



職場復帰の判断に、主治医等の情報として必要なもの（2020）



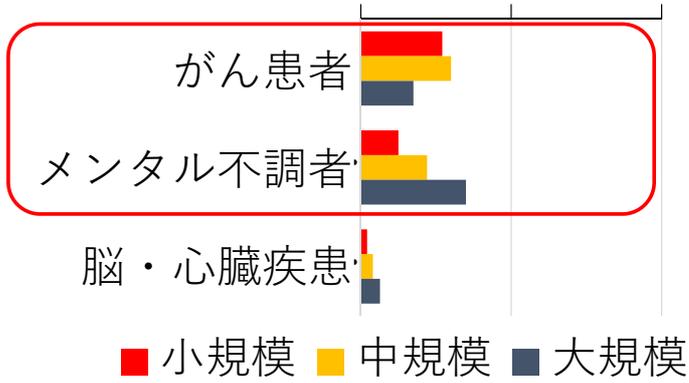
職場復帰の判断に、主治医等の情報として必要なもの（2017）



復職支援制度

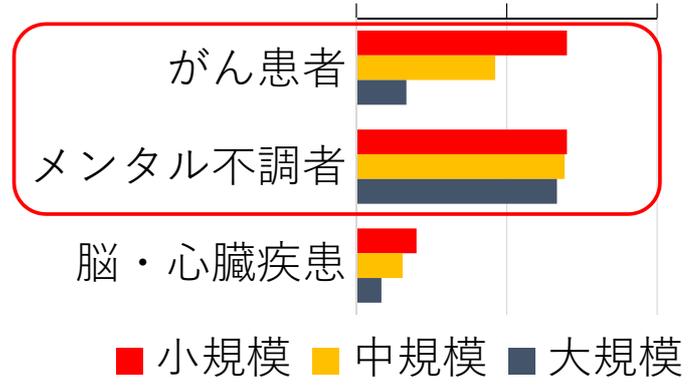
2020

0% 50% 100%



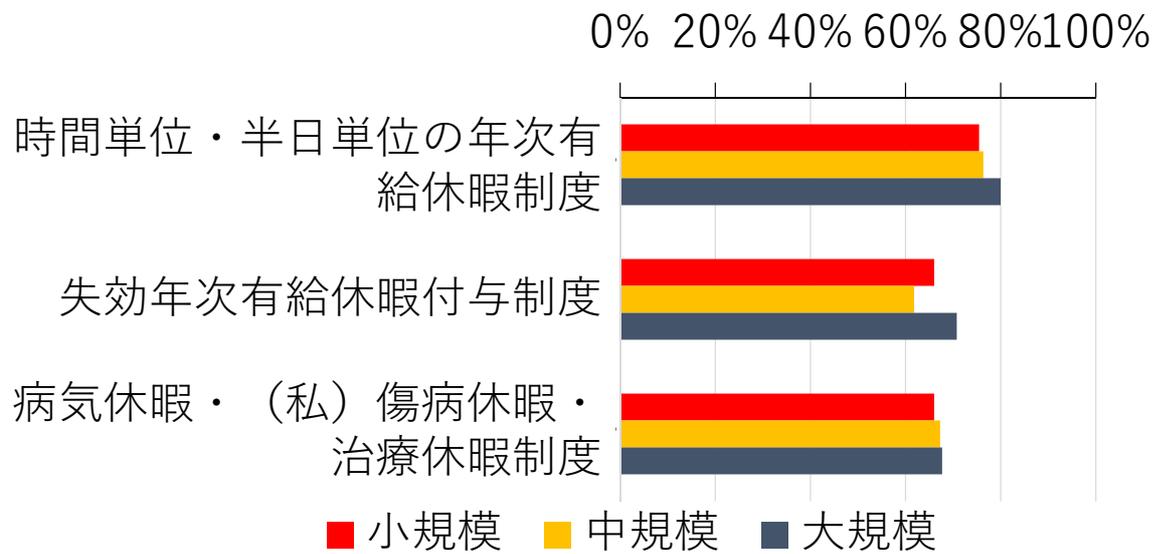
2017

0% 50% 100%



就業規則について

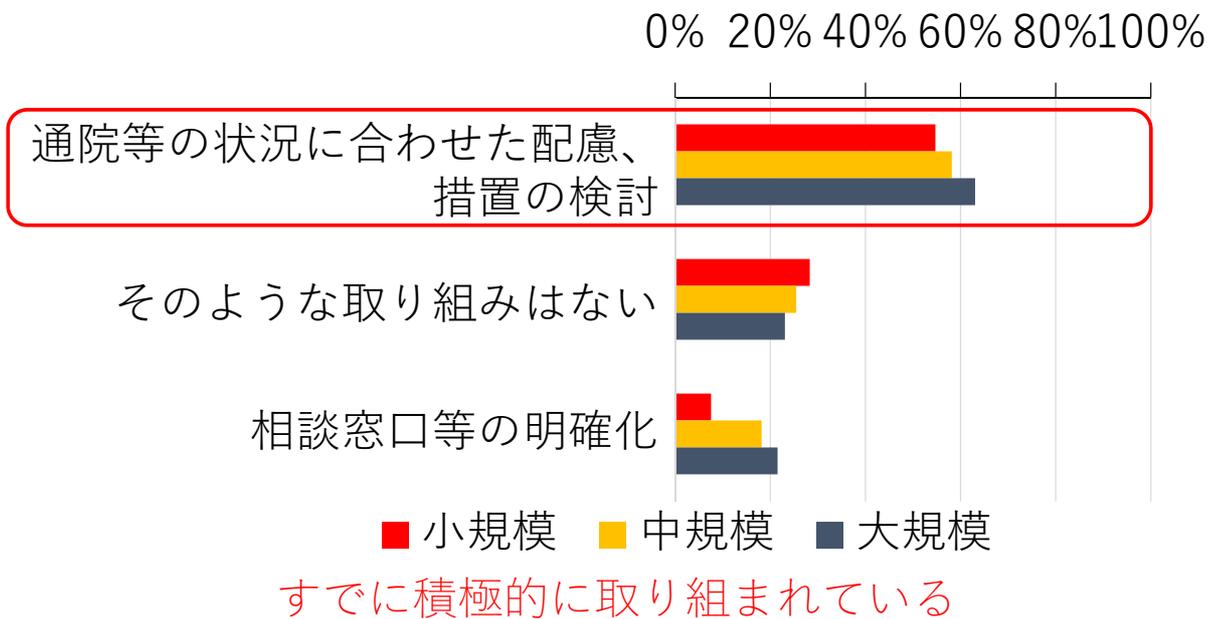
就業規則



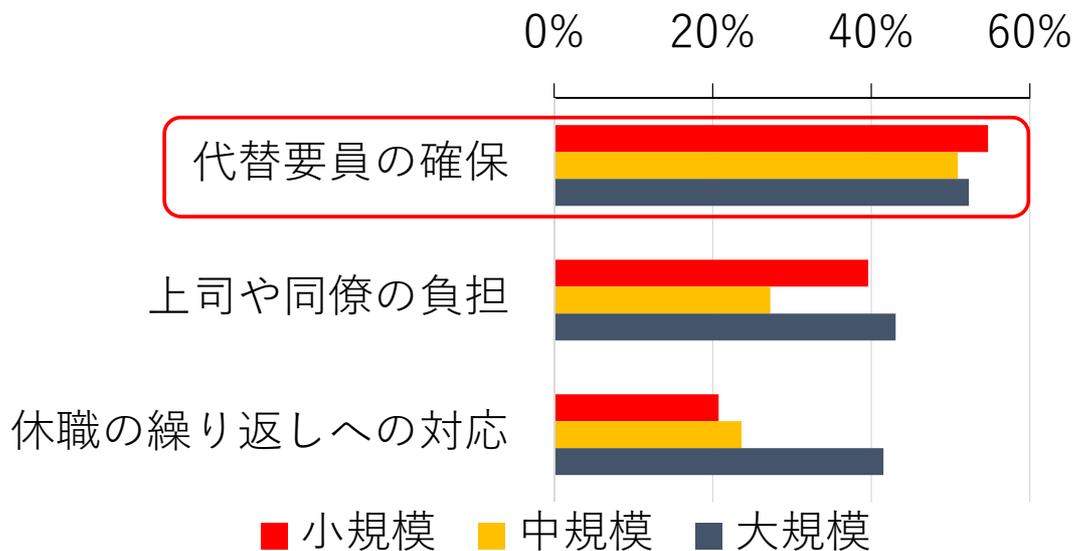
いずれの規模でも6割の事業場で設けられていた

疾病（がん、糖尿病等の私傷病）を抱えた労働者に対する取り組みについて

疾病を抱えた労働者に対する取り組み



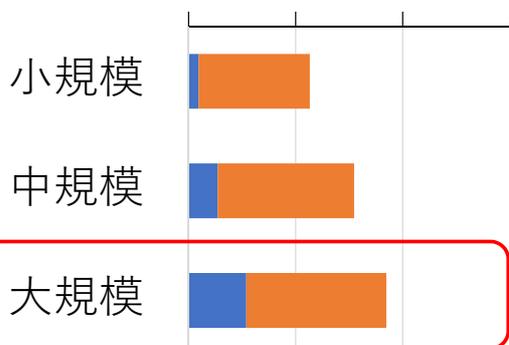
疾病を抱えた労働者が治療と仕事を両立できるような取り組みに関する困難や課題



企業と労働者の支援体制の整備について

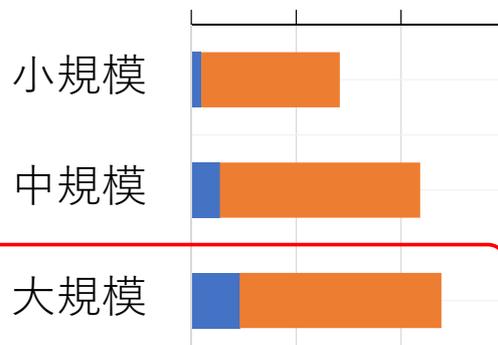
両立支援コーディネーター養成事業

周知
0% 20% 40% 60%



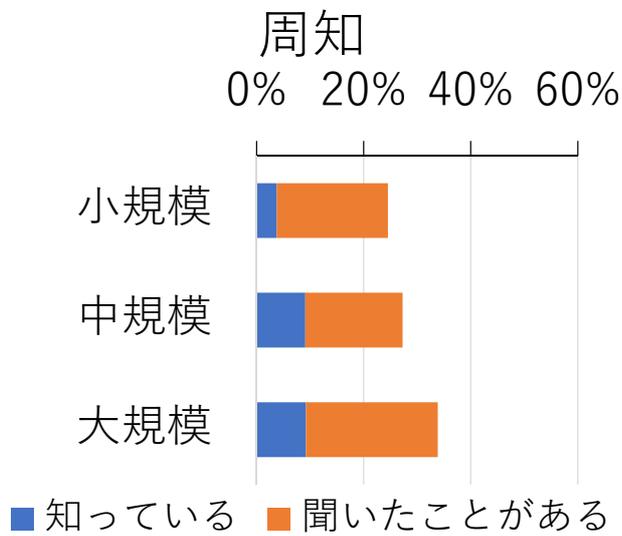
■ 知っている ■ 聞いたことがある

必要性
0% 20% 40% 60%



■ 必要で育成 ■ 必要だが育成しない

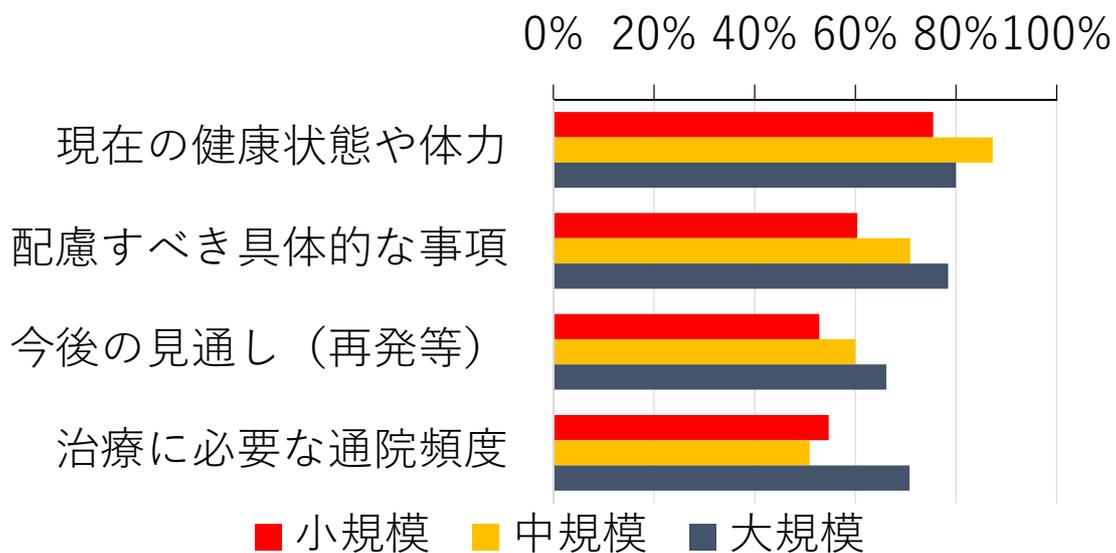
和歌山産保センターの両立支援促進員の配置



両立支援コーディネーターの積極的な広報活動が必要

医療機関との情報共有の促進について

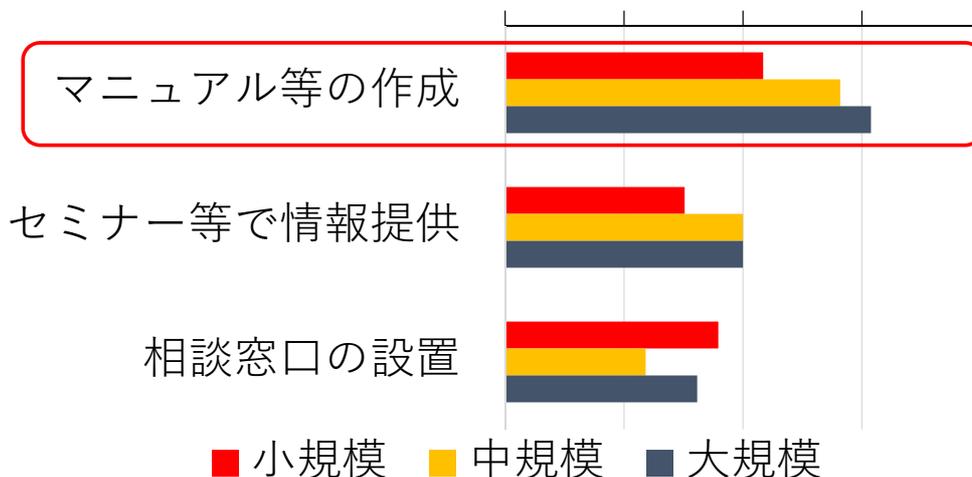
疾病を抱えた労働者の職場復帰を判断するために、主治医から必要な情報



和歌山産業保健総合支援センターの
支援について

がん患者の治療と仕事の両立支援について和歌山産保センターに望むこと

0% 20% 40% 60% 80%



ご質問をいただきました

- 調査における事業所からの回答と事業者の意識（真意）との間の乖離が示唆されること
- （例えば、両立支援に困っていない、GL・マニュアルを知らないとの回答多数にもかかわらず、GL・マニュアル等の作成・配布の希望も多数）
- について、考察していただきたい

職場に生じる困難の有無と
ガイドラインの周知の4群

マニュアル・ガイドブック等の作成・
配付を希望する件数 (%)

	ガイドラインの周知			ガイドラインの周知	
職場に生じる困難	知らない	その他	職場に生じる困難	知らない	その他
困っている	13	42	困っている	2件 15.4%▽	26件 61.9%
困っていない	11	50	困っていない	5件 45.5%	32件 64.0%

困っていてもいなくても、ガイドライン・マニュアル等の作成を希望している

ご清聴ありがとうございました

独立行政法人 労働者健康安全機構
和歌山産業保健総合支援センター

ホーム 概要 ▼ 治療と仕事の両立支援 ▼ メンタルヘルス対策 ▼ 産業保健相談員 ▼ 研修会・セミナー ▼

はたらく人の健康をサポートします。

治療と仕事の両立支援
病気を抱えながらも働く意欲・能力のある労働者が、適切な治療を受けながら生き生きと働き続けられる社会を目指す取り組みです。

メンタルヘルス対策
今、メンタルヘルス対策への取り組みが事業規模に関わらず求められています。専門家が 無料 でお手伝いします。

地域産業保健センター
働くみなさんの安心のために和歌山産業保健総合支援センターの地域窓口としてサービスを行っています。

研修会・セミナー
産業医、看護師、衛生管理者等産業保健スタッフに対する専門的、かつ実践的な研修を実施しています。受講料は無料です。